

## 第113回 ほほえみ 開催

8月15日(水)第113回 ほほえみを開催しました。  
お盆にもかかわらず、7名の方が参加してくれました。

サロン参加者で自身もがん患者さんである北海道新聞の記者さんが紙面にて体験記を連載されました。がんと就労など皆が抱えている問題について語られていて、病院としても、療養支援などについて考えさせられました。



次回のほほえみは、9/19(水)14時から16時まで  
本館3階 特別会議室での開催となります

【がんサロン事務局】

### 『がん検診に思うこと』

(がん体験記)

がんは、「早期発見・早期治療が大切」と言われています。それは、がんを経験した私自身、そして、がんを患った誰もが重く感じていることではないでしょうか。

なのに、未だに、日本のがん検診率の低さが目につきます。都道府県で分ければ、さらに北海道は低い。そして、この病院がある北見市は、さらに低い状態。地方になればなるほど、検診率は低くなっているように感じてなりません。

以前、「なぜ検診に行かないのか」というデータを何かで見たことがあります。

行かない理由は、

- ・忙しい
- ・自分だけは大丈夫だと思っている
- ・何かが見つかったら怖い
- ・お金がかかる
- ・時間がかかる
- ・なにかあったら病院に行く

などでした。今では日本人の半分ががんになるというのに、誰がなってもおかしくないというのに、きっと、“他人事”という感覚が消えないのでしょうか。

「がんが進行してからでは遅いのに・・・」と、思ってしまいます。

そこで期待しているのが、“簡易ながん検査”。治療法や手術など、がん医療はどんどん進歩しています。なのに、検査は未だに部位ごと。定期的に受けなければならない検査だけに、被曝や身体への負担が気になるところです。それぞれの部位ごとに受けなければならないとなると、時間や経済的な負担も大きくなる。

これまで、唾液や尿、血液、がん探知犬でのがん発見・・・など、新たながん検査に関して様々な情報を耳にしてきました。

「これらの研究は、今、どこまで進んでいるのか・・・。実用化の見通しは？」と、定期検査を受けるたび、頭に浮かびます。

治療法や薬などが進歩していくのはもちろんです。が、検査法ももっともっと進んでほしいと願うのは、きっと私たちががん経験者だけではないはず。

身体に負担がかからず、時間もかからず、費用も安く、そしてなにより、確実な検査法の開発が進んでいくことを願ってやみません。

(北海道／女性／乳がん／がん患者本人)